

⑰	09.5.15	大阪(二次)高裁	肝硬変、入市者心筋梗塞、体内異物	国が上告断念して確定
⑱	09.5.28	東京(一次)高裁	C型肝炎、甲状腺機能低下症、8/11広島入市、5キロがんほか	国が上告断念(10名勝訴確定・1名敗訴上告)
<b>肝機能障害と甲状腺機能低下症を積極認定対象疾病とする(限定付言) 2009.6.22</b>				
⑲	09.8.03	熊本地裁(二陣)	変形性脊椎症、肺気腫、骨粗鬆症、頸椎椎間板ヘルニア、変形性膝関節症、長崎8/14入市など	全員勝訴、確認書に基づき控訴せず確定
<b>【原爆症認定集団訴訟の終結に関する基本方針に係る確認書】及び内閣官房長官談話 2009.8.6</b>				
⑳	09.11.30	福岡高裁(熊本一次)		肝硬変が積極認定に入っても認定されていなかった2.5キロC型肝炎について逆転勝訴
㉑	09.11.30	横浜地裁		1.1キロ慢性肝炎、5.4キロ+入市の中咽頭がん、1.2キロ左手指切断後遺症が勝訴。
㉒	10.3.11	名古屋高裁判決	3.1キロ+入市の原告の白内障につき逆転勝訴(判決185頁等)	1名上告断念して確定
㉓	10.3.29	高松地裁	C型由来肝腫瘍	1名勝訴
㉔	10.3.30	東京地裁(第二次)	甲状腺機能亢進症、2キロ心筋梗塞、脳梗塞、117時間後入市がんなど	2名敗訴(5.4キロがん、2日後入市心筋梗塞)
㉕	10.5.25	千葉地裁(第二次)	白内障、甲状腺機能低下症	2名中1名勝訴。甲状腺機能低下症認容
㉖	10.6.16	岡山地裁	子宮体がん	敗訴。総論も低レベル。
㉗	10.7.20	長崎地裁(第二次)	○変形性脊椎症、○脳腫瘍	2名勝訴、4名敗訴
㉘	10.12.22	札幌地裁	2キロ心筋梗塞勝訴	原告1名
㉙	11.7.5	東京地裁(第三次)	○2k台心筋梗塞・狭心症、入市、3.5k脳梗塞、肝機能障害、4k甲状腺機能亢進症、胸部大動脈瘤	実質12名勝訴、4名敗訴
㉚	11.12.21	大阪地裁(第三次)		※2011年12月21日判決

\* 最高裁判決(㉚で控訴棄却された1名に対する上告審) 100219

資料7 原爆症認定訴訟の判決(作成・中川重徳(東京弁護士団))

判決日	裁判所	疾病	結果
93.5.26	松谷訴訟 長崎地裁判決	2.45キロ、頭部外傷による片麻痺	勝訴
97.11.7	松谷訴訟 福岡高裁判決		勝訴
00.07.17	松谷訴訟 最高裁判決		勝訴
00.11.7	小西原爆裁判 大阪高裁判決	1.8キロ 白血球減少症と肝機能障害	白血球減少症で勝訴
<b>2001/5/25 「原爆症認定に関する審査の方針」策定(DS86+原因確率、しきい値)</b>			
04.3.31	東訴訟地裁判決	肝機能障害(C型肝炎)	勝訴
05.3.29	東訴訟高裁判決		勝訴確定

原爆症認定集団訴訟(2003年4月17日~全国17地裁へ提訴)

判決日	裁判所	放射線起因性が認められた疾病	備考
① 06.5.12	大阪地裁 一次		集団訴訟最初の判決。9名全員勝訴
② 06.8.4	広島地裁		41名全員勝訴
③ 07.1.31	名古屋地裁		4名中2名勝訴
④ 07.3.20	仙台地裁		2名全員勝訴
⑤ 07.3.22	東京地裁		30名中21名勝訴
⑥ 07.7.30	熊本地裁	C型肝炎、甲状腺機能低下症ほか変形性脊椎症や膝関節症、糖尿病	21名中19名勝訴。直後に安倍総理が認定基準の見直しを指示
<b>2008/3/17 「新しい審査の方針」策定。4月から実施</b>			
⑦ 08.5.28	仙台高裁(④事件控訴審)		要医療性を実情に即して広く認められた
⑧ 08.5.30	大阪高裁(①事件控訴審)		甲状腺機能低下症につき初の高裁判決(3.3キロ)、ケロイド
⑨ 08.6.23	長崎地裁	C型慢性肝炎・肝硬変、ガラス摘出後遺症、両変形性膝関節炎・足関節炎、心筋梗塞、狭心症	
⑩ 08.7.18	大阪地裁 二次	肝硬変、入市者心筋梗塞	
⑪ 08.9.22	札幌地裁	C型慢性肝炎・肝硬変、慢性甲状腺炎	9/25 河村官房長官「一挙に解決すべきときにきているのでは」「控訴期限までに一つの考え方をまとめたい」
<b>肝機能障害と甲状腺機能低下症の扱いを分科会に議論させることを決める(方向性は示さず)</b>			
⑫ 08.10.14	千葉地裁	C型肝炎、陳旧性心筋梗塞・脳梗塞後遺症	11/19 河村官房長官「東京高裁判決が一括解決のタイムリミット」
⑬ 09.1.23	鹿児島地裁	甲状腺腫瘍、前立腺腫瘍	控訴断念して確定
⑭ 09.3.12	千葉訴訟(一次)・東京高裁判決	C型肝炎、陳旧性心筋梗塞・脳梗塞後遺症	国は上告期限前日まで上告できず。厚労省コメントと被爆者に面談した河村官房長官が「5月解決」を約束
⑮ 09.3.18	広島(2陣)地裁	一部国賠認容。C型肝炎・肝硬変、白内障ほか	
⑯ 09.3.27	高知地裁	虚血性心疾患	原告1名(遺族)

編著者  
原爆症認定訴訟熊本弁護団

連絡先  
〒860-0078  
熊本市京町1丁目12番2号 京町会館1F  
たんぼぼ法律事務所  
TEL 096 (352) 2523  
FAX 096 (352) 2524

### 水俣の教訓を福島へ——水俣病と原爆症の経験をふまえて

2011年8月6日 初版第1刷発行

編著者——原爆症認定訴訟熊本弁護団

発行者——平田 勝

発行——花伝社

発売——共栄書房

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-11 出版輸送ビル2F

電話 03-3263-3813

FAX 03-3239-8272

E-mail kadensha@muf.biglobe.ne.jp

URL http://kadensha.net

振替——00140-6-59661

装幀——佐々木正見

印刷・製本 シナノ印刷株式会社

© 2011 原爆症認定訴訟熊本弁護団  
ISBN978-4-7634-0610-1 C0036

2008年 1月	水俣病溝口訴訟判決、原告の請求を棄却
11月	公害健康被害者補償不服審査会が鹿児島県の男性の審査請求を認め、県の処分取消しを裁決
12月	鹿児島県に認定申請を棄却された男性の逆転認定確定 九弁連が熊本県に対して、「重大な人権侵害が継続している」と警告 新保健手帳交付者、熊本、鹿児島、新潟3県で2万人を超える
2009年 2月	不知火患者会近畿支部の12名が大阪地裁に提訴（ノーマ・ミナマタ近畿訴訟）
3月	与党PT、チッソ分社化と地域指定解除を盛り込んだ特別措置法案を了承 水俣病被害者6団体が「特別措置法案」の分社化と地域指定解除に反対する共同声明 与党が「水俣病に関する特別措置法案」を国会に提出 水俣病被害者の会11団体が県庁要請、与党の特措法に反対する共同声明を发表 九弁連が「水俣病特別措置法案反対」の会長声明を发表
6月	新潟水俣病阿賀野患者会の27名が新潟地裁に提訴 不知火患者会、特別措置法案に反対するため患者会衆議院会館前にて座り込み抗議行動
7月	水俣病特別措置法案が衆参両議院で可決・成立 チッソ、関西訴訟後の認定患者の補償を拒否。この患者が支払いを求め大阪地裁に提訴
8月	環境省原徳寿保健部長の詐病発言が朝日新聞に掲載される 水俣病患者ら160人が原環境省保健部長の詐病発言を巡り部長の解任を求め要請書を提出 熊本・近畿・新潟の水俣病被害者団体と弁護団が水俣病被害者・弁護団全国連絡会議を結成
9月	不知火海岸大検診（2日間で1041名が受診）
11月	ノーマ・ミナマタ訴訟第18陣142名が追加提訴（原告数2051名）
2010年 1月	熊本地裁に原告、被告が解決勧告を要請 ノーマ・ミナマタ熊本訴訟で高橋亮介裁判長が、当事者双方に和解による解決を勧告
2月	不知火患者会関東支部の23名が東京地裁に提訴（ノーマ・ミナマタ東京訴訟）
3月	ノーマ・ミナマタ熊本訴訟で高橋裁判長が和解に向けた解決所見を出す 鳩山首相、解決所見の受け入れを表明 チッソ、解決所見の受け入れを決定 ノーマ・ミナマタ訴訟原告団総会（圧倒的多数の賛成で所見の受け入れを決定） ノーマ・ミナマタ熊本訴訟で基本合意成立
7月	大阪地裁が、水俣病としての認定を義務付ける原告勝訴の判決
9月	関西訴訟認定原告の補償金訴訟で大阪地裁が原告の請求を棄却（2007年5月提訴）
2011年 3月	ノーマ・ミナマタ新潟全被害者救済訴訟、ノーマ・ミナマタ東京訴訟、ノーマ・ミナマタ熊本訴訟、ノーマ・ミナマタ近畿訴訟、和解成立
4月	チッソが分社化（子会社JNCが営業開始）
6月	関西訴訟認定原告の補償金訴訟で大阪高裁も原告の請求を棄却 熊本・天草の地域外の被害者70人が特措法による救済申立
7月	熊本県が関西訴訟原告団長の川上敏行氏を水俣病と認定 チッソが川上敏行氏に対する補償金の支払いを拒否